

## 2020 年度人間福祉学部報

### ■社会福祉学科

最初に辛ご報告をしなければなりません。私たちは、6月に、大切な仲間であり、かけがえない同志だった石川久展先生を喪いました。その3ヶ月前には長年、本学部本学科を支えて下さった陳礼美先生が横浜の大学に移られたところでした。このような悲しい別れに加え、今年度は新型コロナが猛威をふるうなか、学生の教育をいかに質的に保障し、充実したものにできるか、教員全体で考え手探りで進んでいくことになりました。月に1度程度だった学科連絡会議は、藤井博志コンペーナのもと、課題の多い時期にはほぼ毎週、zoomを使って開催されました。先生方には、研究や実践でも色々ご苦勞の多い1年だったと思います。今年もその様子を報告していただき、まとめさせていただきます。なお、報告は氏名(あいうえお順)順に、敬称略で掲載させていただきました。

#### 池埜聡

2020年度は、いち早くZoomの対応を済ませたゼミ生とともにLINEやPadletなども駆使しながら研究演習を進めてきました。3年生は、春学期はオンラインでゆるやかに関係を取りながら、対面となった秋学期からは集中力が伴ったディスカッションを繰り返しています。4年生にとっては就職活動、卒業論文、国家試験対策、そしてニュー・ノーマルへの対応と揺さぶられた1年。学生生活の集大成、対面でのゼミが大切な時間になっています。

#### 今井小の実

春学期の研究演習はzoomで授業を行いました。PC版のLINEともいわれるSLACKを活用し、学生とのコミュニケーション不足を何とか乗り切りました。その甲斐あってか、秋学期の対面授業では、3年のゼミは初めて集まるクラスとは思えない程、活発な意見交換を行う場となりました。4年はコロナ下、就職活動と卒業研究を両立させるべく、がんばっています。この間、学科の

先生方にアナログ人間の私はどれ程助けて頂いたことか、ただただ感謝！

#### 大和三重

2020年の始まりは新型コロナウイルスの感染拡大によって始まったといっても過言ではなく、その影響は大きいものでした。予定していた日本学術会議での国際シンポジウム開催、韓国での共同研究、SWESDのイタリア大会もすべて延期のうえ中止となりました。春学期は授業もオンラインとなり、専門職の研修も初めてオンラインで実施しました。オンライン授業で取り残される学生がいないように注意することを肝に銘じ、新しい常態に向けて模索をつづけているところです。

#### 風間朋子

当初の予定とは全く異なる特別研究期間を過ごすこととなりました。研究計画の大幅な変更を余儀なくされ落胆していましたが、この奇妙な巡り合わせから生まれた時間を利用して何か新しい挑戦ができないかとも考えました。そこで、酷く手間取ることが予期されたため、後回しにしてきた1940～50年代の障害年金制度について取り組むことにしました。結果として、とんでもないことに手を付けてしまったことを自覚し震え上がりながら研究を続ける1年となりました。

#### 川島恵美

川島ゼミ3年生は、元々陳ゼミだった複数のメンバーも加わって、例年より人数も多くなりましたが、ZOOMを駆使してコミュニケーション演習を中心にゼミを行いました。4年生は、毎週、新聞記事やネットの記事の中から、気になるトピックを紹介するという試みを実施し、またステイホームのおかげで卒業研究に集中して取り組めたようです。秋学期は、対面となりましたが、改めて皆で集まるゼミの時間が貴重な機会だと感じています。

#### 佐藤洋

コロナ禍において、保健所の濃厚接触者を探す積極的疫学調査は個人のプライバシー保護との問題に直面します。他の誰と接触したのかは人の名前があって初めて可能になりますが、学内の発端

者を匿名化する場合には、個別調査は不可であり同行動の教室全員～クラブ員全員が一旦接触者扱いになりえます。被感染は不可避の場合も多く、感染自体の不安と人間関係上の不安に直面し、予防することの重要性を新ためて認識いたしました。

#### 林真帆

今年度はコロナ渦の影響を受け、授業準備や学生とのコミュニケーションの取り方に苦勞しましたが、学生の顔もわからないまま授業スタートした基礎演習では、「顔の見える関係」の重要性を再確認できました。閉塞感がある状況のなか3年ゼミでは九州ルーテル学院大学（心理臨床学科）との合同ゼミを ZOOM で実施し、コロナ環境での学生生活や社会福祉への影響等ディスカッションができてよかったです。4年ゼミは残念ながら卒業研究の指導が主でしたが、今期は ZOOM であれ対面であれ学生と交流することがとても大切な時間になりました。

#### 馬場幸子

春学期、ZOOM って何だ? の状態から、大急ぎで ZOOM や LUNA の機能を学び、オンライン授業を開始しました。秋以降は、現任者を対象に ZOOM と対面のハイブリッド研修も行っています。授業や研修の内容以外のところで新たな知識やスキルが求められることに、正直負担を感じています。しかし、この間も学生たちはよく頑張ってくれていました。今、3年生はグループ活動の成果報告、4年生は卒業論文完成へ向けて邁進しています。その頑張りにこちらが励まされています。

#### 平尾昌也

ソーシャル・ファームについて、「日本でどのようにしてソーシャル・ファーム概念が受容されてきたのか」を文献レビューを通して明らかにしつつ、これからのソーシャル・ファーム実践が地域共生社会の実現、地域福祉の推進に貢献できるかを検討しています。また、コロナ禍でのソーシャル・ファーム実践状況について、この危機的な状況をどのように乗り越えてきているのかを明らかにすべく、ヒアリング調査を実施しています。

#### 藤井博志

地域福祉研究は、国の緊急対策で出された「つ

ながり推進員」の理論化と推進方法の提案及び今後の地域づくりリーダー養成の研究を、この施策を提言した NPO とともにを行っています。また、地域包括支援体制に対する批判的・建設的な推進提案の研究を始めています。ゼミ活動は、コロナ禍でフィールドワークに苦戦していますが、地域密着型 NPO 法人「なごみ」や「暮らしづくりネットワーク北芝」とつながって現地学習を行っています。

#### 前橋信和

新型コロナで春学期はすべてリモートでの演習になりました。メール、ルナでのやり取りは慣れないこともあってもどかしく、また、学生も環境が整わず苦勞したようです。秋学期は基本リモートでの演習実施の予定でしたが、資料の閲覧、個別指導等を考えると対面授業も必要となり、ズーム演習から対面+ズーム並行演習となりました。学生の希望は対面演習がほとんどでした。卒論は何とか提出できるのではないかという状況です。

#### 松岡克尚

4年生ゼミは春休みに大分大学との交流会に向け「障害者スポーツ」「障害者の結婚」「障害とメディア」をポスターにまとめましたが、コロナ禍のために中止になってしまいました。春学期は慣れない中でのオンラインで卒論に向けた個人報告を続け、秋は対面で個人指導を受けながら完成に向けて健闘中です。3年生はコロナ禍にもめげずに夏のオープンキャンパスで無事に研究報告を果たし、現在は障害者週間の企画に邁進しています。

#### 石川先生代理（松岡克尚）

ゼミにとって大きな出来事は、やはり6月の石川先生の急逝でした。コロナ禍の中でも石川先生はゼミ生のことを考え、個人指導のスケジュールを策定してくださっていたのですが、結局、日の目を見ることがなくなってしまいました。今は、石川先生に無事卒業したことを報告すべく、ゼミ生一同、卒論に勤しんでいるところです。幸いなことに社会福祉学科の全先生方が個別にご指導あたたかくださっており、ゼミ生一同心からの感謝です。

#### 安田美予子

コロナウィルス感染症のため、春学期の3年ゼ

ミはすべて Zoom で行いましたが、秋学期は対面を基本に大学に来られない学生もいたため、同時並行で Zoom も用いながらゼミを行いました。秋学期では、春学期にはほとんど取り組むことができなかつた学生グループによる研究・報告とそれを基にしたクラスディスカッションを行うことができました。教室に来ている学生達が Zoom で参加する学生を上手く巻き込みグループ活動を行ったことや学生達が直接交流できたゆえに、ゼミのまとまりも強まり、学生同士による学び合いも深まっていったように思います。

#### 李善恵

今年度は、コロナ禍のため、個人研究の資料調査やインタビューは、全くできませんでしたが、この期間を有効利用して昨年度のアンケート調査データの整理及び分析を行いました。また、社会福祉実習や福祉社会フィールドワークにおいては、新型コロナウイルスへの感染症対策を十分取ることによって無事に終えることができました。改めて日常生活のありがたさや危機管理の大切さをより深く学んだ一年でした。

(今井小の実)

## ■社会起業学科

人間福祉学部社会起業学科が開設され13年目を迎えました。今年度は80名の1年生が新たに加わり、2年生74名、3年生78名、4年生85名、総勢317名でスタートしました。

2020年度、社会起業学科は新たに村井琢哉先生、森重裕子先生をお迎えしました。村井先生はNPOの運営の経験をもとに、子ども・家庭を取り巻く困難に対するソーシャルワークや、それを市民主体で改善に取り組むための方法や事業化のプロセスについての研究に取り組まれています。社会起業学科では、NPO論、ボランティア論などの科目を担当しています。森重先生は、ソーシャルワークや国際保健分野の専門性をもとにHIV予防の疫学研究を行ってこられました。女性と子どもの社会参加とエンパワメントのため、ブルキナファソにおいてフェアトレードのビジネスを起業され、研究と事業を繋げた実践に取り組まれています。社会起業学科では、国際問題論、社会開発論、多文化共生論などを担当しています。社会起業家としての実践力をもつ力強いお二人の仲間が加わったことで、本学科の教育・研究に厚みと活気がさらに増してきました。

さて、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、異例づくしの1年となりました。大学キャンパスにおいては入構制限が行われており、秋学期からは大学の活動制限のレベルを確認しながら、オンラインと対面を織り交ぜて、授業や各種イベントを実施していくことになりました。

今年は海外への渡航制限がある中で、学科の特色を反映したイベントや国内外における課外活動を伴う授業実践については、その多くが中止や延期という状況になりました。実施できた取り組みは限られていますが、概要について、以下にご報告します。作成にあたり、村井先生、森重先生にご協力いただきました。

### ① 社会起業学科新入生歓迎プログラム

「社起っとフードスポーツやDAY!2020」

社会起業学科では、新入生歓迎プログラムとして、「これが社起やDAY!」を毎年4月に実施しています。今年度は対面イベントの実施が難し

く、2度の延期を経て11月に実施できました。マスク・ビニール手袋の着用、検温、換気、手洗いの徹底、手指消毒等の対策を取りながら実施しました。概要は下記の通りです。

- 日 程：2020年11月21日（土）
- 会 場：関西学院大学 G号館201・202
- 参加者：1年生38名、学生スタッフ10名（2年生）、7名（3年生）
- 内 容：アイスブレイク、学生スタッフによる講義とグループワーク（テーマ「フードロスを考える」）、交流のための軽スポーツ（ポッチャ、風船リレーなど）

### ② 社会起業英語中期留学

今年度は、新型コロナの影響により海外渡航ができず、オンラインでの実施案が出されたものの、実際の留学と比較した場合の学習効果が明らかではないため、中止となりました。

### ③ 社会起業インターンシップ

#### 1) インターンシップ（国内）

この授業では、社会的企業において働くことを通して社会的課題の実態を理解するとともに、具体的な取り組み方法を学び、実践能力を高めることを目的としています。今年度は3年生の2名の学生が国内インターンシップに取り組みました。1名は小学生や中学生を対象とするオルタナティブスクールを運営する認定NPO法人で、もう1名は、在日外国人の多言語相談や健康相談などの直接支援／間接支援を行う任意団体で、それぞれ120時間のインターンシップを行いました。インターンシップ先は下記の通りです。

- 認定NPO法人 コクレオの森（箕面こどもの森学園）（2020年1月27日～3月2日）
- 多文化共生センターひょうご（2020年1月11日～7月31日）

また、秋学期には学生主催で社会起業家の講演会を企画し、以下2名によるZoomオンライン講演会を開催しました。講演会は、教室からもライブ視聴できる形で開催され、学生の司会のもとに活発な質疑応答がなされました。

- 11月17日（火）4限 黒田尚子氏（神戸アジア食堂バル SALA 店長）

- 11月24日(火)4限 大塚広基氏(NPO法人 キッズドア スタッフ)

## 2) インターンシップ(海外)

この授業では、海外での社会貢献活動について学ぶこと、異文化の環境のなかで働く能力を養うこと、社会課題を把握し取り組む能力を高めることを目標に、夏季休暇中に6週間のインターンシップを行います。残念ながら、今年度は新型コロナの影響により中止になりました。

## 3) インターンシップ演習(海外)

今年度のインターンシップ演習を受講する学生は、新型コロナの影響で次年度の夏休みにも渡航の見通しが立たないため、ZOOM オンラインを活用して海外とつなぎ、現地で活動する人びとから直接説明をしていただく機会を特別に多く作りました。特にインターン先の希望がネパール・ルワンダ・自由枠希望のクラスでは、ネパールやルワンダ、ブルンジなどで活動する社会起業家から直接講義を受けています。同クラスとフィリピン・オーストラリア希望クラスは、一部合同で実施し、海外の社会起業家による講義の際には活発な質疑応答をすることができました。海外からの講義は以下のとおりです。

- Dr. Sunil Chitrakar (Nepal)、Mahaguthi : Craft with Conscience, CEO
- 山田美緒氏 (Rwanda)、KISEKI、女将
- Dr. Jean-Christophe Ryckmans (Nepal/Burundi)、CPCS International, International Director
- 出合祐太氏(北海道/Burkina Faso) 一般社団法人 北海道ベースボールアカデミー、代表理事

## ④ 社会起業フィールドワーク

### 1) フィールドワーク(国内)

今年度は80名の学生が国内フィールドワークに取り組みました。新型コロナの影響により対面での実施はできませんでしたが、“現場から学ぶ社会起業の課題と取り組み”を意識し、現場と学生をオンラインでつなぎ、社会的課題に直面している当事者の方や問題解決に向けて取り組みを行っている社会起業家、実践者にお話をうかがいま

した。その中で、問題解決に取り組む姿勢を学び、現場の方々と会い、質問しながらお話を聞き、それをまとめて整理し、他人に伝える技術を獲得することを目的に、団体を取材させていただき、その様子を示すスライドショーを作成しました。フィールドワーク先は下記の通りです。

- ワークメイト神戸
- 認定NPO法人 Homedoor
- NPO法人 暮らしづくりネットワーク北芝
- NPO法人 地域環境デザイン研究所 ecotone
- バザールカフェ
- NPO法人 山科醍醐こどものひろば

### 2) フィールドワーク(海外)

今年度は新型コロナの影響により中止となりました。

## ⑤ オープンキャンパスの社会起業学科イベント

今年度はすべてオンライン開催となりましたが、7月26日(日)、8月1日(土)~2日(日)の日程でWEBキャンパスが開催されました。本学科では、「サザエさんの不思議-消費税で社会保障を支える意味」(小西砂千夫先生)と「社会起業って楽しい!」(山本隆先生)、「家事労働についてジェンダーの視点で分析しよう-コロナ禍の逃げ恥ブームから考える-」(澤田有希子)の講義を行いました。また、10月24日(土)に開催されたWEBオープンキャンパスでは「創造性を活かした地域再生-国内外の事例から社会起業の在り方を考える-」(孫良先生)の講義を行いました。

## ⑥ 実践教育報告会

人間福祉学部各学科の実践教育を報告する場として、実践教育報告会を12月12日(土)に開催しました。本学科からも、フィールドワーク、インターンシップ等の実践教育科目に取り組んだ学生が、ポスター発表形式で報告を行いました。3学科および大学院生との合同開催であるため、他学科の学生との意見交換や情報共有の貴重な学びの機会を得ることができたと思います。

(澤田有希子)

## ■人間科学科

人間科学科が開設されて13年目となりました。今年度は、103名が新入生として加わり、2年生90名、3年生96名、4年生117名の総勢406名でスタートしました。前年度の卒業生（9期生）は99名で、卒業後の進路は、一般企業（金融・保険、製造、卸売など）、公務員、教員、医療・福祉など、多岐に渡っています。就職を希望する学生における就職決定者の割合、いわゆる就職率は人間福祉学部全体で100%と、昨年度に引き続き高水準で推移しています。

人間科学科では、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）として「人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる」ことを掲げており、具体的には死生学・スピリチュアリティを中心とした学問分野、身体運動科学・身体パフォーマンスを中心とした学問分野の両領域、すなわち「こころ」と「身体」の両面から人間を深く理解することを学生の学修成果の目標としています。この方針に基づき、カリキュラムが編成されており、「人間科学入門」「人間科学実習入門」「人間科学フィールドワーク入門」「人間科学フィールドワーク」といった人間科学科独自の科目も開講されています。今年度は世界的なコロナ禍のため、春学期はWebによる授業、秋学期の一部対面での授業となりました。概要を以下に紹介します。

### 「人間科学入門」

1年次春学期の必修科目であり、人間は、その誕生から死に至る様々な局面において、どのようなことを経験し、こころと身体がどのように変化していくのかという点について、学科の全教員がオムニバス形式で授業を担当しています。今年度は、各教員の専門分野に応じて、「誕生」「発育発達と運動」「教育と社会」「悩み」「指導者」「素質」「結婚」「身体運動の魅力」「自己実現」「死別」「老い」「死-いのちを生きる-」という各回のテーマを設定し、授業が行われました。

### 「人間科学実習入門」

2012年度に新設された1年次秋学期の必修科目であり、学科教員によるオムニバス形式の授業に加え、合宿を例年行っています。今年度の合宿

は、コロナ禍のため実施できませんでしたが、10月8日（木）の夜、西宮市にあるキッザニア甲子園を訪れて、施設内見学をいたしました。学生たちは10グループに分かれて、スーパーバイザーと呼ばれるスタッフから、子どもへの接し方や民間施設のマネジメント方法などを学びました。

### 「人間科学フィールドワーク入門」

現場での実習に向けての前段階として、必要な基礎知識を学ぶための科目と位置づけて、2年次秋学期に開講しています。受講者数は10名が履修となりました。この授業では、フィールドワークの心得や記録の書き方などを学んだうえで、希望する実習先でのフィールドワークプランを作成し、体験実習を行います。今年度は、コロナ禍のため、現地での実習ができず、リモートでの実施となりました。訪問ができない「大阪YMCA国際専門学校」「長野総合スポーツクラブ」「庄内わんぱくの杜」「農家民宿」「公益社」「神戸レインボーハウス」「大阪聖和幼稚園」「新阿武山クリニック」の計8箇所の実習先にご協力いただき、実習を実施しました。

### 「人間科学フィールドワーク」

人間科学科での学びの集大成ともいえる科目であり、実際のフィールドでの実習を通して、こころと身体の両面からの人間への深い理解と支援のあり方を体得するとともに、自己への洞察を深めることを目的としています。毎年、各学生が自らのこれまでの学びやバックグラウンドを踏まえて実習計画書を作成し、担当の教員の指導のもと、座学では学ぶことの難しい貴重な学びを得ています。今年度は1名の学生が履修し、コロナ禍のため途中で中断もありましたが、リモートと併用しながら、「葉の会」「グリーンケア神戸かけはし」「ともしび」「てのひら」の4か所での実習を行いました。

人間福祉学部では2020年度からの新カリキュラムが始まりました。コロナ禍のため、困難を抱えての出発となりましたが、人間科学においては、「こころ」と「身体」の両面から人間を理解するという学科の理念を大切にしつつ、人間科学科の特色を活かした教育・研究活動の充実に向けて一丸となって乗り越えていきたいと思えます。

（山 泰幸）

## ■言語教育

### ・必修英語科目

人間福祉学部では、必修外国語科目として英語講読と英語表現を設けています。学生の習熟度と第2外国語の選択科目に対応するため、クラス数は15となっています。流暢さの向上と素早く的確に情報を読み取る能力を養うために、英語講読ではすべてのクラスで多読を授業外の課題としています。学部資料室の副読本の拡充と管理の適正化をはかり、図書館蔵置のものと共に使用しています。専門教育への橋渡しとなるべく、人間福祉学部の社会福祉・社会起業・人間科学3学科と英語科の教員が分担執筆したテキストを使用しています。現在はその2冊目(『English for Human Welfare Studies』2016年1月、朝日出版)を使用しています。また本学部の英語教育方針を反映したシラバスに沿う授業進行をはかるため、本学部英語教員が作成した教科書を、1年次の英語表現A/B(『English Beams』2016年1月、金星堂)と2年次の英語表現C/D(『Real Writing-大学生のためのエッセイライティング入門』2019年4月、南雲堂)を使用しています。

より英語力を高めたい学生には、必修英語科目に替えて受講できるプログラムや科目が別途用意されています。一定の要件を満たせば、1年生春学期、または1年生秋学期から履修することができます。なおこれらのコースを受講する場合、後述の人間福祉学部が提供する英語コミュニケーションを第2言語として選択することはできません。外国人留学生には日本語Iを必修科目として開講しています。

### ・第2言語科目

選択必修の第2言語としては、人間福祉学部が用意する英語コミュニケーション、日本手話、および言語教育センターが用意するスペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語のうちの1言語を1・2年次4学期間履修することを義務付けています。原則として途中で言語を変更することは認められていません。なお外国人留学生用選択科目として基礎英語を用意しています。以下に①英語コミュニケーション、②日本手話、③スペイン

語についての概略を紹介します。

① 英語コミュニケーションの授業では、英語による異文化間コミュニケーション能力育成と多文化共生意識の涵養をはかるため、例年ゲストスピーカーを招いた授業や交換留学生との交流を取り入れた授業を行っています。ゲストスピーカーの選定にあたっては、英米出身であっても英語圏における文化がもつ多様性を伝えられる方を講師とするよう心掛けており、非英語圏出身者で国際共通語として英語を用いた活動をしている方には、その活動フィールドや内容などについて語っていただいています。今年度はコロナ感染防止対策のためオンラインで開講されることになったので、残念ながらゲストスピーカーや交換留学生との交流はできませんでした。春学期はLUNAの掲示板を使った活動、秋学期は同時双方向型オンライン授業を取り入れ、ペアワークやグループ活動を通してコミュニケーション能力の伸長を目指しました。

② 本学部の設置趣旨に沿い実施されている日本手話では、学年の約1/3にあたる約80名の学生が受講しています。

手話実技の練習には学生1人当たり一定の空間が必要となるため、1クラス15名に限っています。週2コマのうち1コマをネイティブ・サイナーの講師による実技学習に充て、もう1コマを「聴者」講師による「ろう文化概論」「日本手話概論」「文法」「読解」に充てています。

実技学習は、手話で手話を教えるダイレクトメソッドを採用し、また幼児の言語習得原理に基づくナチュラルアプローチを中心に進めています。実技学習(もしくは実技の授業)では音声は禁止され、音声日本語の干渉を受けない環境の下で手話習得を促進し、同時にろう者の基本的会話マナーを学んでいきます。また、ろう者のゲストスピーカーを招いていますが、その様子を録画し、資料室で閲覧可能にしています。授業で学んだ日本手話を授業外でも活用できる機会として、ろう者を招いての交流会なども実施しています。

2年次の秋には、学生一人一人がろう者や手話に関するテーマを自由に設定し、プレゼンテーシ

ョンのコンテストを行い、手話への理解を深める機会を設けています。

③ スペイン語は言語教育研究センターが提供している科目であり、全学共通カリキュラムにより運営されています。スペイン語圏でも特に中南米は、貧困などの多くの社会問題を抱えている点、また社会問題解決のための革新的な取り組みが行われている地域が増加している点など、人間福祉学部における学びを大いに活かせるフィールドであると言えます。また、日本国内にも中南米出身者が多く在住し、スペイン語や近縁のブラジル・ポルトガル語文化への理解が地域社会の福祉を考える上で必須となっています。そのためスペイン語科目を履修する本学部生には2年間の履修期間が終了するときには、自分自身や自分自身を取り巻く事柄を簡単なスペイン語で表現でき、辞書を使えば、自分に必要な情報を本やインターネットなどから得ることができるようになることを学習目標としています。授業は週2回開講されてい

て、1クラスは日本人教員が主に文法を教え、もう1クラスはネイティブ教員が会話や言語運用の授業を行っています。

人間福祉学部では、例年30名前後の学生がスペイン語を履修しています。大学に入学して初めてスペイン語を学ぶ学生が多く、スペイン語特有の語形変化や動詞活用などの学習を困難に感じる学生もいますが、1年目の秋に入ると慣れてきて「面白くなってきた」と熱心に勉強し始める学生も少なくありません。授業ではスペイン語で意思伝達や情報収集ができる学生の育成に重点を置き、スペイン語圏の文化や社会、日本に暮らすスペイン語圏出身者に関する教材や資料などをできるだけ使用して、異文化理解を深め、多文化と共生していくための下地を学生の中にするよう努めています。オンライン授業となった2020年度は、すでにインターネットにつながっていることを利点と考え、スペイン語圏諸国に関する情報収集を各自行う活動を行いました。

(中野陽子)

## ■チャペル

今年度の春学期は、新型コロナウイルスの感染拡大により大学での授業が原則オンラインでの実施となったため、対面でのチャペルアワーは実施できなかった。そこで、毎週チャペルメッセージを作成し、キリスト教学 A 受講生全員に LUNA を通して配信し、併せてそれを学部のホームページに公開した。その内容は以下の通りである。

	担当者	タイトル	配信日
1	嶺重 淑 (宗教主事)	悔いのない学生生活を	4/23
2	嶺重 淑 (宗教主事)	目標を目指して走る	4/30
3	嶺重 淑 (宗教主事)	地の塩として	5/7
4	嶺重 淑 (宗教主事)	狭き門から入る	5/14
5	嶺重 淑 (宗教主事)	新しいぶどう酒は新しい革袋に	5/21
6	嶺重 淑 (宗教主事)	時を知る	5/28
7	嶺重 淑 (宗教主事)	希望へと至る苦難	6/4
8	嶺重 淑 (宗教主事)	高ぶる者とへりくだる者	6/11
9	嶺重 淑 (宗教主事)	平和の祈り	6/18
10	嶺重 淑 (宗教主事)	本当に大切なもの	6/25
11	李 善恵 (社会福祉学科教員)	この時期こそ、喜べ	7/2
12	武田 丈 (学部長・社会起業学科教員)	春学期を終えるに当たって	7/9

秋学期は大学で一部対面での授業が再開されたため、「新型コロナウイルス感染症対策のための人間福祉学部チャペルアワー実施のガイドライン」を作成し、週一回、毎週水曜日に対面でのチャペルアワーを実施した。もっとも、キリスト教学ははじめ大半の授業は引き続きオンラインでの実施となったため、出席できる学生が極めて限られているという状況に鑑み、チャペルアワーの様子を毎回録画し、キリスト教学受講生全員に LUNA を通して配信し、併せてそれを学部ホームページに公開した。その内容は以下の通りである。これに加えて、大学合同チャペルやクリスマス点灯式他、オンラインで実施された各種クリスマスプログラムも配信した。

日時	担当者	タイトル
9/23	嶺重 淑（宗教主事）	チャペルオリエンテーション
9/30	李 善恵（社会福祉学科教員）	「感謝」
10/7	桜井智恵子（人間科学科教員）	「能力に応じて、必要に応じて」
10/14	茨木正志郎（英語科教員）	「学生時代の思い出」
10/21	小西砂千夫（社会起業学科教員）	「死してしかばね拾う者なし」
10/28	安田美予子（社会福祉学科教員）	「ユネスコ報告書から子どもの幸福を考える」
11/4	嶺重 淑（宗教主事）	「運命への愛」
11/11	藤井 美和（人間科学科教員）	「委ねて生きる」
11/18	笹場 育子（人間科学科教員）	「人生の選択」
11/25	前橋 信和（社会福祉学科教員）	「若い皆さんへ」
12/2	嶺重 淑（宗教主事）	「アドベントを覚えて」
12/9	大和 三重（社会福祉学科教員）	「コロナ禍に想う」
12/16	李 善恵（社会福祉学科教員）	人間福祉学部クリスマス音楽礼拝
12/23	武田 丈（学部長・社会起業学科教員）	「コロナ禍のクリスマス」

\*この他、山本隆先生（社会起業学科）による講話：「人生での出会い ノーマン・ジョンソン先生の思い出」も学部ホームページに公開した。

以上述べたように、今年度はコロナ禍の状況下、例年に比べて極めて限定的な内容のプログラムしか実施できなかった。現時点では次年度、例年通りに週三回のチャペルアワーが実施できるかどうか明らかでないが、より充実したプログラムを提供できるよう努力していきたい。

（嶺重 淑）

## ■人間福祉学部優秀卒業研究賞「あじさい賞」

人間福祉学部では、故 浅野仁名誉教授の寄付により、優秀な卒業研究を執筆した学部学生の努力を称えるため、優秀卒業研究賞（通称「あじさい賞」）を設けています。

名前の由来は、あじさいを同氏が好まれたことによります。

最優秀賞・優秀賞には表彰状と副賞（図書カード10,000円）が贈られます。

2019年度の受賞者は次のとおりです。

・最優秀賞

該当者はありません

・優秀賞

岩崎 朱音

悪口を言う理由について

### 人間福祉学部優秀卒業研究賞規程

（目的）

第1条 学校法人関西学院は、浅野仁氏（本学名誉教授）よりの寄付金をもって、人間福祉学部優秀卒業研究賞を設定する。

2 この賞は、人間福祉学部学生の学習・研究意欲を高め、勉学の向上をはかることを目的とする。

（資格及び交付）

第2条 この賞は、毎年人間福祉学部において優秀な卒業論文等を執筆した学生に授与する。受賞者を毎年若干名とし、受賞者には賞状と副賞を授与する。

（所管及び運営）

第3条 人間福祉学部に優秀卒業研究賞（浅野賞）選考委員会を設け、受賞者の選考に当たる。

2 選考委員会の構成及び選考方法については別に定める。

（規程の改廃）

第4条 この規程の改廃は、選考委員会の議を経て、人間福祉学部教授会で決定し、理事会の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、2011年（平成23年）4月1日から施行する。